



たぞえ
と
めぐろ

活動報告レポート

Vol.5

たぞえ麻友

3児の母

「目黒区議会議員」

子育ての
たぞえ!



- 1 企画総務委員会の視察で訪れた静岡県地震防災センターで、津波の高さを体感できる展示
- 2 東京2020オリンピック・パラリンピックのカウントダウンモニター設置記念式
- 3 WOMAN SHIFT[政策実現できる女性議員を増やす活動]で、夜間保育園のABC保育園(新宿区認可)を視察

たぞえ麻友プロフィール

- 1982年東京都目黒区生まれ35歳
- 目黒サレジオ幼稚園、目黒星美学園小・中・高等学校卒業
- 受験にあたり、予備校の早稲田塾(自由が丘校)にも通学
- 早稲田大学政治経済学部卒業。在学中、南アフリカで開催された持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)に参加
- 専門商社に2年勤務後、ベンチャー系経営コンサルティング会社に8年勤務
- 夫、子ども3人(9歳、7歳、5歳)の5人家族、父親と同居。

たぞえ麻友
事務所

TEL 080-8885-6965
FAX 03-5722-9794
mail mayutazoe@gmail.com

ご感想、区政に関するご意見等、お気軽にお寄せください。



ごあいさつ

みなさまいかがお過ごしでしょうか。

私、たぞえ麻友は「子育てのたぞえ」として子育て政策を得意としていますが、最近は介護や看護関連のご相談も頂戴します。目黒区では2030年に高齢者(65歳以上)の方が全人口の26.6%、つまり4人に1人になると予想されています^{*1}。アクティブシニアという言葉があるように何歳であっても活発な方がいらっしゃる一方で、健康や将来にご不安を抱える方もいらっしゃいます。目黒区は健康づくり、生きがいづくりに取り組んでいます。私も、何歳になっても活動される方を応援します!ぜひお声がけください。

^{*1}「目黒区人口ビジョン」

元号「平成」が終わる日が平成31年4月30日に決まりましたが、その過程で統一地方選挙が平成31年4月にあることが考慮されたと報道されています。目黒区議会も統一地方選挙ですので、私の任期も平成が終わる直前までです。残りの任期を全うすべく、いま一度みなさまからのご意見をお聞きする機会を広げるため、今回はアンケート葉書をご用意しました。もちろん、これまで通りメールやホームページ、お電話でも受け付けております。疑問に思うこと、困っていることなど、お寄せください。

アンケートでご意見をお寄せください



- Q1 区政の中でより詳しく知りたいことを以下からご選択ください。
☐ 財政状況 ☐ 待機児童対策 ☐ 健康づくり ☐ 防災 ☐ その他
- Q2 裏面の区政トピックに取り上げた「民泊」について、ご意見をお聞かせください。
- Q3 その他、生活の中で区政に関する気になることを教えてください。

日々の活動は、ブログ、Facebook、twitterをご覧ください。



www.mayutazoe.com

f たぞえ麻友と目黒区の未来を創る会
t たぞえ麻友 保活・子育て・区政をツイート中!

アンケート回答欄

- Q1 ☐ 財政状況 ☐ 健康づくり
☐ 待機児童対策 ☐ 防災
☐ その他 []

Q2

Q3

お名前	ご年齢	歳
住所	目黒区	丁目 番 号
	建物名	

活動報告

一般質問:平成29年11月の本会議において、
区政について質問しました。

区の財政は、国が財源を都市部から地方へと移譲する流れの中で、減収する不安要素が多々あります。既に、ふるさと納税(目黒区は平成29年度、約12億円の減収見込み)や消費税の清算見直しによる減収は確実のものとなっています。今後、区の施設整備や事業運営において、PFI※2など収益を得ながら運営する仕組みを取り入れていくことについて提案します。



▶一般質問の様子

<公園におけるPFI>

駒沢公園に新しくできたレストランは民間から公募した事業者です。また、池袋駅近くの南池袋公園は、公園内のレストラン事業者が公園の運営も担っており、公園を一体的に管理・運営しています。また、レストランの賃料やイベントによる収益が公園運営に還元されています。国の公園緑地法等の改正を受け、公園の新しい運営が求められているが、区の現状と認識はいかがでしょうか。



<区の広告事業の拡大>

目黒区のホームページのバナー広告のように、区の事業を広告媒体として活かす取り組みは既に行われている。このような取り組みをさらに進めることについて、いかがでしょうか。一案として、郵便局が行なっているレンタルラックについて具体的に提案します。区の認可保育園のことで窓口に来た方が、認可外保育園の情報をラックにあるチラシから得られるような状況ができないか。区役所が手続きだけの場所ではなく、情報収集の場所としても役に立てると考えます。

→区からの回答は、区議会議事録検索から見ることができます！
<http://www.kensakusystem.jp/meguro/index.html>
会議録の閲覧>平成29年第4回定例会>第2日目11月24日



▲南池袋公園

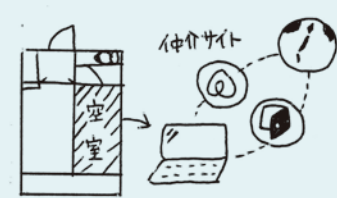
※2PFI(Private Finance Initiative: プライベート・ファイナンス・イニシアティブ): 公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法。(内閣府 民間資金等活用事業推進室ホームページ)

区政トピック

「民泊新法と条例」

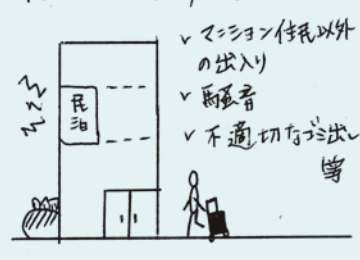
民泊とは...

空いている部屋・家を旅行者に
有料で貸し出すこと。



民泊の増加と共に...

トラブルや不安の声が...



国は...

・イボウシド(訪日旅行)需要
・予約・予約・予約
に向けて、宿泊施設を増やしたい
↓
民泊新法(健康な民泊)
<年間180日制限> <近隣の周知>

自治体(目黒区)は...

生活環境を守る!!
↓
↓
↓
上限宿泊日数を180日
より少なくすることで制限を
厳しくする。

私の意見

違法民泊は厳しく制限すべきものだが、健全な民泊、特に家主滞在型(ホームステイ型)は厳しく制限せず、多文化共生や交流を促進すること、または生きがいづくりなど活用できる方法を考えるべし。

コラム 「1人の区民として生活する中で」

日々、議員として議会活動を行う一方で、私も1人の区民として目黒区で生活しています。その生活体験の中にも、「行政との関わり」が多々あります。今回は、私が経験した「母を自宅で看取る」ことについて、少しでも私の経験が役に立てばと思い、コラムにてご紹介します。

〒153-0065

東京都目黒区中町
1-7-4

たぞえ麻友事務所
たぞえ麻友 行

恐れ入りますが
62円切手を貼って
投函してください。

たぞえ麻友へのご要望やご意見、応援メッセージはこちらへ

私の母は、62歳で亡くなりました。まだ私が区議になる半年ほど前、母が60歳の時、大腸ガンから発生したガンが大腸以外の臓器にも転移している深刻な状況で、ステージ4(ステージは0~4の5段階)と診断されました。(母の死を意識したことが出馬の決断を後押ししました。)手術でがんを切除した後、抗がん剤治療を経て一度落ち着いたものの、約1年後にガンが再発。抗がん剤治療を再開した結果、副作用で腸に穴が空き、再入院しました。入院中は、ほぼ絶食状態。点滴で栄養を補給するものの、腹水が溜まり、足はむくみ、循環がうまくいかなくなりました。徐々に、為す術がなくなり、終末期緩和ケア病棟を勧められるようになりました。母は、病気だから病院にいたい、家に戻ることに不安、家族の負担への懸念、(私は母と同居しており、2世帯で過ごしていました)いろいろな思いから「家に帰りたい」と言いませんでした。しかし、せん妄(時間や場所がわからなくなり、幻覚が見えたり、興奮したり、混乱した状態になる症状。認知症と異なり、病気や環境の影響による一過性のもの。)が出てきて、自分が自分ではなくなったことに驚き、母が「家に帰りたい」と言いました。手続きとしてはまず、地域包括支援センターへ行き、ケアマネジャー・訪問看護・訪問診療の医師と契約、そして病院からの申し送りを急ピッチで行いました。この時、遠慮せずに、母や家族の希望をはっきりと伝えておけばよかったなと反省しています。

家に帰ってきて、料理上手だった母が一番長く過ごしてきたダイニングキッチンへ連れて行きました。母の表情がとても和み、やはり連れて帰ってきてよかったと思いました。車椅子に乗り、鼻には酸素吸入のチューブを常時つけていたので、トイレに行くのも一苦勞でした。介護を一度もしたことがない私や父でもできるよう、補助の仕

方は看護師さんが教えてくれました。家族でケアをすると言っても、日々看護師さんが体調を看てくれるうえ、訪問診療の医師も定期的にきて母や家族の不安を取り除きながら、穏やかに最期を迎えるよう処置してくれました。看護師さんが介護ベッドの上で洗髪もしてくれ、本当に気持ちよさそうでした。病院では、入浴の時間に気分が悪くなってしまい、度々入ることができなかったと言っていました。家に帰ってきて2・3日でせん妄はほとんど治りました。ある日、母がビールを一口だけ欲しいと言うので、父と乾杯して一口飲み「あー、幸せ」と大きな声で発していました。母はあのビール党でした。これも家に帰ってきてよかったことです。病院にいた頃は、苦しいことを訴えたいけど苦しくてしゃべれない。看護師さんたちに遠慮して、ナースコールを押さない。我慢の連続だったようです。それが家では、ささやかな希望を気兼ねなく伝えることができていました。しかし、大変なのは夜です。ガンによる全身の痛み、そして呼吸困難に苛まれ、夜中に何度も起きて訴えるので、家族が吸入やモルヒネの機械を吸入やモルヒネの機器を動かして対応します。私は夜中、母が立てる音を聞き逃すまいと寝るというよりも、横になりながら目をつぶっていたという状態です。

家に帰ってきて3週間、寝ている時間が増え、ずっとこのまま静かに寝ているのかなと思うほどでしたが、父(母の夫)の誕生日を迎えた日の朝、息を荒げることなく亡くなりました。記念日を大切にしていた母らしい日に亡くなりました。私はほとんど寝ることができず、壮絶な3週間を過ごしましたが、母が自分を取り戻し、母らしい最期を迎えることができました。また、私も母の死を受け止めることができ、母を自宅で看取ってよかったと感じています。

今後、2025年問題を迎えるにあたり、国が在宅介護、在宅療養を進めようとしています。目黒区でも、地域包括支援センターに在宅療養相談窓口を設置するなど、支援の窓口を広げようと取り組んでいます。

- 2025年問題:2025年に、国民の4人に1人が75歳以上となり、介護と医療がパンクすると言われています。国は、医療・介護報酬を改定し、「入院から在宅へ」という、地域の中で過ごすことに舵を切っています。
- 地域包括支援センター:目黒区内に5つあり(北部、東部、中央、南部、西部)、介護や医療についての相談をワンストップで受けてくれる機関です。

